

# 泉のほとり

●三位一体後第二〇主日

今日の詩篇「第九五篇」

深い地の底も御手の内にあり

山々の頂きも主のもの。



## 気を落とさずに祈る

イエスさまはいつも気を落とさずに祈ることを教えるために、神を恐れな、人を人とも思わない裁判官に「相手を裁いてください」と訴えて来た一人のやもめの話をされました。裁判官は彼女にしばらく取り合おうとしなかったのですが、「このやもめはうるさくて仕方がないから、裁判してやる。そうでないとひっきりなしにやってくる、私を散々日に這わすに違いない」と考えました。

夫を失い、日々の生活の困難な状況の只中で、更に悪・不義による不当な扱いを受けていた一人のやもめが「相手を裁いてください」としきりに願いを求めているのです。「気を落とす」という言葉ではそのやもめの状況を十分に表しきれないのではないでしょうか。生死にかかわるような真つ暗な境遇の中で苦しめられている。だから、ひっきりなしにお願ひするしかない、その無力なやもめがここに描かれていると思われれます。

旧約聖書では、やもめのための裁きを曲げる人は呪われる、苦しめてはならないと語られています。そう言われる厳しい神さまの言葉があるにもかかわらず、やもめの苦しみに取り合おうとしなかった裁判官は本当に神を恐れない、人を人とも思わない人です。

キリストはそういう悲しき裁判官でも、自分の都合のために裁いてくれる。まして神は選ばれた人たちのために裁きを行わずにいつまでも放っておくことがあろうか。速やかに裁いてくださる、と言われました。この世には不義が行われ不当な苦しみを受けることが多々あります。しかしそれらすべてを知っておられ、正しく裁いてくださる方がおられます。キリストは「だから、そのお方を信じなさい」

と教えられているのです。「しかし、人の子が来るとき、果たしてこの地上に信仰が見られるだろうか」とも言われています。

キリストが弟子たちに気を落とさずに「祈る」と言われたのは、「祈る」以外のことは私たちに許されていないということです。今日の話は「やもめ」という言葉の代わりに「ある人」という言葉が使われても不自然ではありません。しかしキリストがここで「やもめ」を登場させたのは、やもめは裁判官にお願ひすることしかできない「無力な人」だからです。「気を落とさずに祈る」とはすべてを正しく裁かれる神さまの前で、私たちもそのように無力になることを教えています。人をそれぞれの行いに応じて裁いてくださる方がおられます。神さまを差し置いて、お願ひすべきそのお方を差し置いて、自分の分を超えたことを行うことは許されていないのです。お願ひすることだけが許されているのです。

やられてもやり返さない。ののしられてものしり返さない。苦しめられても、人を脅さない(第一ペテロ2章23節)。キリストが弟子たちに身をもつて示されたように、やられたらやられっぱなしというのは、古い自分が死に、無力になった心、唯々神を信頼するその心でなければ、できることではありません。

人の子が来られる時、「わたしはあなたの忍耐、わたしへの従順を知っている。忠実な僕よ」と認められる「信仰」を、この仮住いの世にあつての唯一の望みとして生きていきたいと願つてやみません。いつも気を落とさずにその祈りの中に生きていきたいと思ひます。

(ルカ一八・一〜八)

## 祈り

今ここに集まって来ることができました。当然のごとくここに来たのかも知れません。いや、さまざまな誘惑と闘いながら、やっとなんか来ることができたとの思いに満たされている者もあるかと思えます。

いつも足を引きずるような思いで生きておりました者が、この朝は明確な思いで来ることができております。すべてあなたが用意してください、あなたが、あなたを拜む志を用意してくださいからであります。この祈りの家に多くの人が集まるのを待ち、久しぶりの友の顔を見つけて喜び、また、心にかかっていた者が今日もここにいないことを改めて祈りのうちに覚え、病床にある友がどんなにこの場所を慕っているかと思いを集めながら祈っています。

すべての心にかかる思いを、あなたが聖めてください。聖められた民としてここに立つことを得させてください。その聖められた思いで、先週一週間の日々に行ってきたこと、もう思い出すことのできない過ちをも、今、心に留めさせてください。御言葉を聞かないふりをして過ごした日々、朝は祈つたのに夕べはもう祈らなくなつた一日、あの人のため、この人のためにこれをしなければと思ひながら、さま

ざまな理由をつけて怠けてしまった日々、あなたのみ前にあつてこれを恥じ、これを悔い、何よりも御心に従うことが少なかつたことをお詫びすることができますように。そして、どうぞ一週間の歩みのうちに狭くなつてしまい、しぼんでしまった自分の心を広げて、祈りの中で、大きく上にあるものを求める思いに生かされますように。隣人のために祈る祈りに生かされますように。

家族のために祈ります。友人たちのために祈ります。この国のために祈り、世界のために祈り願いたいと思つております。どうしても受け入れることができない者のために、あなたの御心に生きているのだろうかと言つてしまう人びとのために、どうぞあなたが御心を行ってください。

あなたを信じている者も、信じていない者も、平和と愛と義を作らんとするあなたの御心に生きることができるよう。どんな小さなわざにも、望みをもって生きることができるよう。わたし共をあなたの御言葉と御力の中で生かしてください。そのために、祈っているわたし共の祈りに耳を傾けてください。病んでいる者に、望みを失っている者に、厳しい闘いの中で立ちすくんでいる者に、あなたがその近くにおいてください。御霊を注いでください。御声を聞かせてください。今、そのような喜びの時を共に味わうことができますように。

主イエス・キリストの御名によって、感謝し、祈り願います。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

## 今日のお知らせ

○今日は桜台教会との講演交換です。第一第二礼拝とも桜台教会の中川寛牧師が説教をされます。吉村牧師は桜台教会で奉仕します。

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒースービスと、園舎二階リズム室では、礼拝で受けた恵みを分かち合う「ぶどうの会」が、同じく園舎二階のなでしこの部屋で、紫雲香音楽伝道師の指導による讃美と祈りの会が行われます。どうぞご参加ください。

○第二礼拝後、ホールで、讃美と報告の後、中川先生を囲む会をします。お昼はお弁当です。

○今日のホール集会後、ホールで伊藤旬里子師の指導による健康エクササイズが行われます。参加費無料です。

○来週の午後、久しぶりにハイデルベルク信仰問答を学ぶ会をします。今回は問五〇、五二です。よくお読みくださつてご参加ください。

○少し先のことですが、一月二三日(木・祝日)午前〇時半から午後四時までの予定で、説教師の公開シンポジウムと伝道派遣礼拝が行われます。午後の伝道派遣礼拝では加藤常昭先生が説教されます。どうぞご参加ください。

## フランクフルトだより

濃独してからの恵み

八月第一週礼拝でみなさまにお祈りしていた後、翌週より無事にドイツでの生活が始まりました。

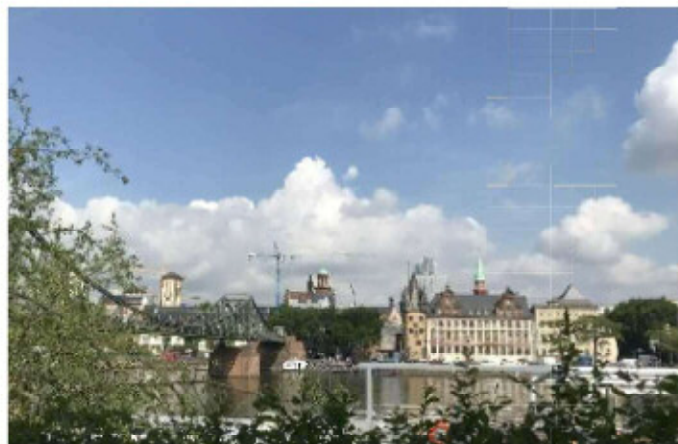
夫の駐在に帯同するのはイギリスに続き、二回目です。同じ欧州でも言葉も人々もまったく違います。けれども不思議なことに懐かしい思いが蘇りました。やはりどこか似ているところがあるのでしようか。それともここは日本ではない！と、異国で生活することの覚悟がそうさせるのでしょうか。

日常生活に慣れてくると、少しずつ人との交わりが広がっていきます。娘の希望で日本人国際学校の幼稚園に入園させていただきました。日本語で生活できることもあって、娘は楽しく元気に登園しています。ホームドクターもかかりつけ医も日本人の先生がいっぱいいます。辛いなことに、日曜日には教会へ行き、日本語の説教を聴くことができます。

私はドイツ語の勉強をはじめましたが近所のドイツ人ご夫妻は英語で話しかけてくれます。これで良いのだろうか。そう思っていた頃、娘が結膜炎になりました。ホームドクターで処方された点眼薬が効かず、専門医を紹介されました。新

たな眼科で驚いたことが二つあります。一つは、待合室に入るときは既に待っている人々に向かって丁寧に挨拶をしてから入室することでした。待っている人も挨拶をかえしません。診察まで一時間半ほど見ていましたが、もれなく全員でした。そして二つめは、ドクターが私と娘の目を見てそれぞれとしっかり握手してから診察をはじめることでした。後日、歯科検診で訪れたドイツ人の歯科医師も同様でした。相手の目を見て握手をする、信頼関係が生まれるような気がします。

(山城 芳子記)



(8月のフランクフルト中心部)

## 聖書の会

11月1日(水)

○朝の聖書の会 10時

「あざ笑い」

使徒17章16〜34節

黄允湜 副牧師

○聖書の夕べ 19時

「復活の確かさ」

ルカ20章27〜40節

古村和雄 牧師

## ミニコンサート

11月9日(木) 12時30分開演

「楽興の時」OP16

ピアノ演奏 警谷 幸

## 次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌 小さいこどもの 461番

説教 「人生を変える出会い」

聖書 ルカ19章1〜10節

説教者 古村和雄 牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌 9番 324番

詩編 第21篇

説教 「あなたはわたしを愛しているか」

聖書 ヨハネ21章15〜19節

説教者 菊池美穂子 姉



## 第1礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 II 59番

讃21-361番

説教 「高ぶる者は低く、低い者は高く」

聖書 ルカ18章8～14節 (新約P144)

司式者 山下 純一 兄 聖餐司式 黄 允浚 副牧師

説教 中川 寛 牧師 (桜台教会)

前奏曲 「ハレルヤ主をほめたたえ」 H.ビーク

○ 讃美歌第二編 59番

1. すべてのももの統らすかみよ

み名をたたえ ほめうたささぐ

みめぐみゆたけく 正義みつる

かみこそわれらの盾 また巖

2. よろこびもてささげまつる

うたはたかく みくらにとどき

ものみなどよみて こたえうたわん

「かみにぞみさかえ ときわにあれ」と

3. わが主イエスにしたがいゆき

こころひくく自あてはたかく

この世にわが主の み望のなる

その目をのぞみて われらいそしまん

○ フルートによる讃美

シャコンヌ BWV1004より J.S.バッハ

○ 讃美歌21-361番

1. この世はみな 神の世界

あめつちすべてが 歌い交わす

岩も木々も 空も海も

み神のみわぎを ほめたたえる

2. この世はみな 神の世界

鳥の音 花の香 主をたたえる

朝日 夕日 空に映えて

み神のみわぎを 語り告げる

3. この世はみな 神の世界

悪魔の方が 世に満ちても

わが心に 迷いはなし

主こそがこの世を治められる

## 第2礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 18番 399番

詩篇 第95編 (旧約P933)

説教 「命の水」

聖書 ヨハネ7章37～39節 (新約P179)

司式者 山下 純一 兄 聖餐司式 黄 允浚 副牧師

説教 中川 寛 牧師 (桜台教会)

前奏曲 「神はわがやぐら」 D.ブックスター

○ 讃美歌18番

○ フルートによる讃美

シャコンヌ BWV1004より J.S.バッハ

○ 聖歌隊による讃美

「とわにたたえよ」 J.P.スケリソフ

とわにたたえよ み神のみ名を

高く歌え み栄あれと

地の果までも みわぎたたえよ

地の果までも みわぎたたえよ

○ 讃美歌399番

聖餐曲 無伴奏フルート ファンクジーより

G.Ph.テレマン

後奏曲 「アレグロ」 G.F.ヘンデル

聖餐曲 無伴奏フルート ファンクジーより

G.Ph.テレマン

後奏曲 「アレグロ」 G.F.ヘンデル

× 礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。